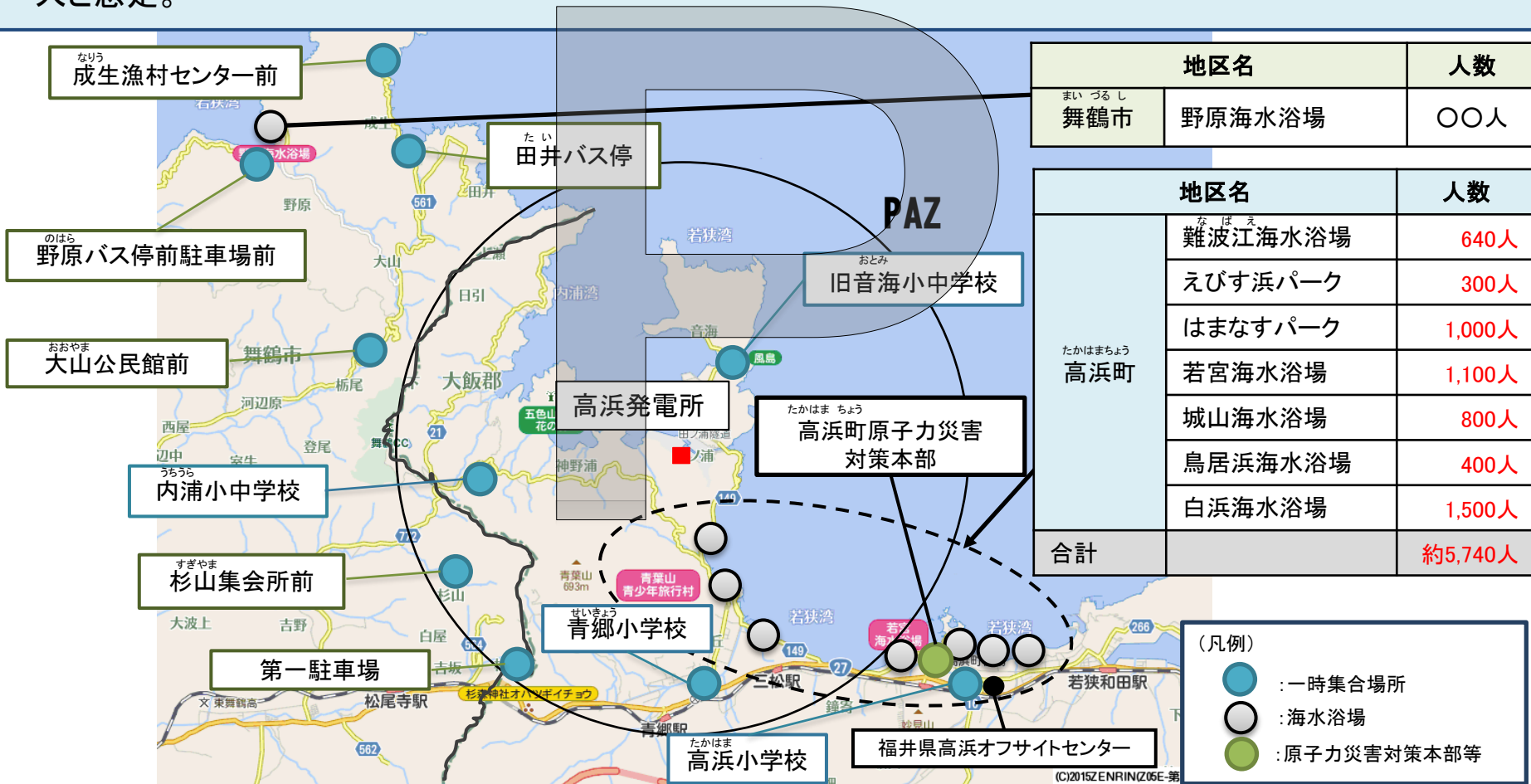


PAZ内の海水浴場及び入場者の数

- 高浜町ではPAZ内に海水浴場が7か所あり、平成28年度シーズンの1日あたりの最大入込客数は約5,740人。
- 高浜町の海水浴客の交通手段は、対象となる海水浴場周辺の駐車場利用率によると全体の約9割が自家用車利用で、残りの1割が貸切バス及び公共交通機関を利用。(平成28年度観光客入込調査 高浜町)
- 舞鶴市ではPAZに準じた避難を行う地域に海水浴場が1か所あり、1日あたりの想定最大入込客数を約〇〇人と想定。



※ 野原海水浴場の想定最大入込客数は、同海水浴場の1日あたりの平均入場見込人数約150人に、高浜町の海水浴場における、一日あたりの最大入込人数と平均入込人数との比率を乗じて試算。

高浜町において施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力

▶ 高浜町において施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力は、想定対象人数約〇〇〇人(うち支援者数〇〇人を含む)について、バス**62台**、福祉車両**40台**(ストレッチャー仕様**18台**、車椅子仕様**22台**)。

	想定対象人数	必要車両台数※1			備考
		バス※2	福祉車両※3 (ストレッチャー仕様)	福祉車両※3 (車椅子仕様)	
学校・保育所の児童等の避難	児童等 961人 +職員 146人 (=1,107人)	25台 (児童等 961人 +職員 146人)	0台	0台	保護者への引き渡しによりその分必要車両台数は減少【資料P28】
放射線防護対策が講じられていない社会福祉施設の入所者の避難※4	入所者数 28人 +職員数 14人 (=42人)	1台 (入所者 14人 +職員 2人)	14台 (入所者 14人 +職員 12人)	0台	【資料P29】
在宅の避難行動要支援者の避難	453人 +支援者 453人 (=906人)	21台 (要支援者 453人 +支援者 453人)	0台	0台	支援者の車両での避難によりその分必要車両台数は減少【資料P30】
在宅の避難行動要支援者のうち、無理に避難すると健康リスクが高まる者及びその支援者を放射線防護施設に輸送※5	186人 +支援者 186人 (=372人)	0台	4台 (要支援者 15人 +支援者 15人)	22台 (要支援者 171人 +支援者 171人)	屋内退避施設に輸送 近距離のためピストン輸送(4往復)を想定【資料P30】
観光施設から避難する一時滞在者	60人 (600人×0.1)	2台	0台	0台	1日あたりの観光客数 600人 のうち、9割以上が自家用車で訪問している(『平成28年度観光客入込調査高浜町』)ことを踏まえ、その1割を想定対象人数として算入。【資料P32】
海水浴場から避難する一時滞在者	574人 (5,740人×0.1)	13台	0台	0台	1日あたりの海水浴客 480人 のうち、9割以上が自家用車で訪問している(『平成28年度観光客入込調査高浜町』)ことを踏まえ、その1割を想定対象人数として算入。【資料P33】
合計	3,061人	62台	18台	22台	

※1 数字は現段階で高浜町が把握している暫定値
 ※2 バスは1台あたり45人程度の乗車を想定
 ※3 福祉車両(ストレッチャー仕様)は1台あたり1人、福祉車両(車椅子仕様)は1台あたり2人の避難行動要支援者を搬送することを想定
 ※4 放射線防護対策が講じられていない若狭高浜病院、若狭高浜病院附属介護老人保健施設の入所者の輸送に必要な車両は、バス**2台**[入所者**56人**+職員**21人**]、福祉車両(ストレッチャー仕様)**19台**[入所者**19人**+職員**19人**]、福祉車両(車椅子仕様)**55台**[入所者**110人**+職員**110人**]が必要。当該2施設については、7日間の屋内退避が可能(必要な食料・生活物資等については備蓄中)
 ※5 「無理に避難すると健康リスクが高まる者」は、輸送の準備が整うまで放射線防護施設内に屋内退避

- 施設敷地緊急事態発生時には、社会福祉施設、在宅の避難行動要支援者、教育機関の避難等のために、福井県嶺南地方のバス会社が保有する車両のほか、高浜町、おおい町、小浜市内の医療機関、社会福祉施設、社会福祉協議会や関西電力が配備する車両により、必要車両台数を確保。

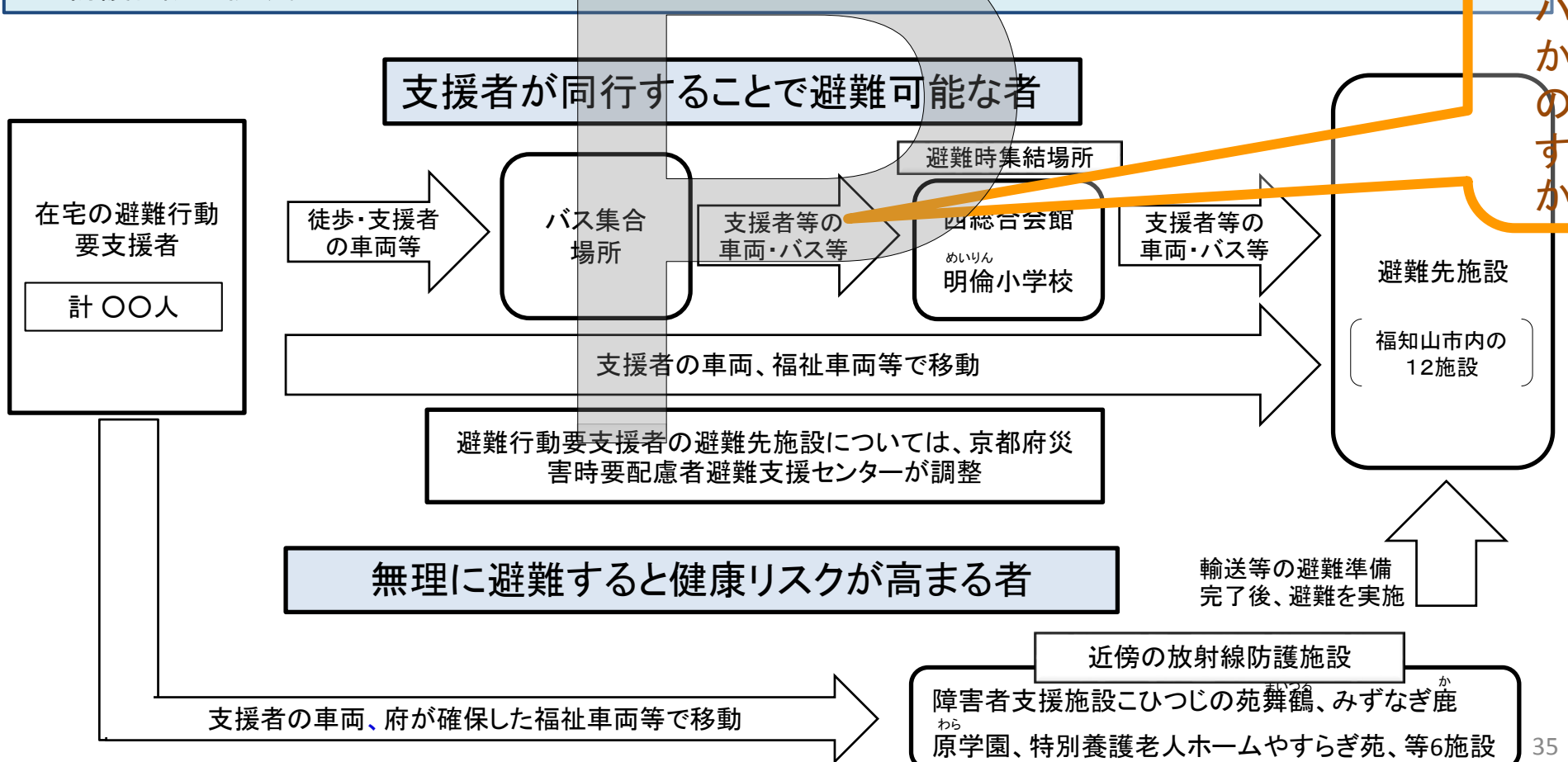
		確保車両台数			備考
		バス	福祉車両 (ストレッチャー仕様)	福祉車両 (車椅子仕様)	
(A) 必要車両台数		62台	18台	22台	
(B) 確保車両台数		計62台	計18台	計22台	
確保先	<small>たか はま ちよう お ばまし</small> ・高浜町、おおい町、小浜市 ・医療機関、社会福祉施設、社会福祉協議会(高浜町、おおい町、小浜市)	2台	5台	20台	保有車両台数 バス4台 福祉車両(ストレッチャー)10台 福祉車両(車椅子)57台
	<small>れいなん</small> バス会社(福井県嶺南地方)	51台 ^{※1}	—	—	保有車両台数 バス 187台
	関西電力	9台	13台	2台	保有車両台数 バス〇台 福祉車両〇台 (ストレッチャー、車椅子兼用) 福祉車両(車椅子)〇台

※1—福井県原子力防災訓練(平成26年度)の実績を参考に、バス会社保有台数のうち1/4程度の出動を見込む

※21 不測の事態により確保した輸送能力で対応できない場合、実動組織(警察、消防、海保庁、自衛隊)に支援を要請

舞鶴市のPAZ内の在宅の避難行動要支援者への対応

- 舞鶴市では、在宅の避難行動要支援者〇人のうち〇人は支援者がいることを確認。残る避難行動要支援者については、支援者の確保に向け調整中。また、支援者を確保できない場合においても、行政職員、自治会、消防職・団員等の協力により避難等ができる体制を整備中。
- 支援者の同行により避難可能な者は、支援者等の車両又はバス等で避難先へ移動。
- 避難行動要支援者の避難先については、「京都府災害時要配慮者避難支援センター」が舞鶴市と連携の上、避難行動要支援者の態様に応じて府内の施設を調整・確保。
- 無理に避難するとかえって健康リスクが高まる者は、支援者の車両又は府が確保した福祉車両等で、近傍の放射線防護施設へ移動。



バカノスガ

舞鶴市において施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力

舞鶴市において施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力は、想定対象人数約〇〇人(うち支援者数〇〇人を含む)について、バス〇台、福祉車両〇台(ストレッチャー仕様〇台、車椅子仕様〇台)。

	想定対象人数	最大必要車両台数※1			備考
		バス※2	福祉車両※3 (ストレッチャー仕様)	福祉車両※3 (車椅子仕様)	
学校・保育所の児童等の避難		該当施設なし			
病院・社会福祉施設の入所者の避難		該当施設なし			
在宅の避難行動要支援者の避難 ※4	〇人 + 支援者〇人 (=〇人)	〇台	〇台	〇台	・支援者の車両での避難によりその分必要車両台数は減少 ・必要に応じて放射線防護施設に輸送【資料P36】
在宅の避難行動要支援者のうち、無理に避難すると健康リスクが高まる者及びその支援者を放射線防護施設に輸送※5	〇人 + 支援者〇人 (=〇人)	〇台	〇台	〇台	・支援者の車両での避難によりその分必要車両台数は減少 ・必要に応じて放射線防護施設に輸送【資料P36】
観光施設から避難する一時滞在者	〇〇人 (〇〇〇人 ×0.1)	〇台	〇台	〇台	1日あたりの観光客数〇〇〇人のうち、9割以上が自家用車で訪問している(『平成〇年度観光客入込調査舞鶴市』)ことを踏まえ、その1割を想定対象人数として算入。【資料P32】
海水浴場から避難する一時滞在者	〇〇人 (〇〇〇人 ×0.1)	〇台	〇台	〇台	1日あたりの海水浴客〇〇人のうち、9割以上が自家用車で訪問している(『平成〇年度観光客入込調査舞鶴市』)ことを踏まえ、その1割を想定対象人数として算入。【資料P33】
合計	〇人	〇台	〇台	〇台	

※1 数字は現段階で舞鶴市が把握している暫定値

※2 バスは1台あたり45人程度の乗車を想定

※3 福祉車両(車椅子仕様)は1台あたり2人の避難行動要支援者を搬送することを想定

※4 バスについては、PAZ(松尾・杉山地区)に1台、PAZに準じた避難を行う地域(大山地区、田井地区、成生地区、野原地区)に2台の配車を想定

※5 無理に避難すると健康リスクが高まる者については、近傍の放射線防護施設に屋内退避